

お お む ら さ き オオムラサキ

オオムラサキ (*Sasakia charonda*) は、りんしちゆく 鱗翅目タテハチョウ科の昆虫で、同科の日本産のものでは最大種、世界でも有数の大型タテハチョウです。昭和32 (1957) 年に日本昆虫学会で国蝶に選定されました。75円切手の図柄にもなっています。準絶滅危惧種で、環境省の自然指標昆虫 (※1) の一つに指定されています。

雄は開帳 (※2) 90mm内外で、黒色に黄と白の斑紋があり美しい紫色に輝きます。雌は開帳100mm内外で斑紋は黄色、雄のような紫色部はありません。

東アジア特産で、日本では本州を中心に北海道南西部、四国と九州中部まで分布しています。北海道では、石狩市、札幌市 (石狩管内)、小樽市、余市町、仁木町、古平町 (後志管内)、夕張市、砂川市、由仁町、栗山町 (空知管内)、安平町 (胆振管内) など限定した地域で生息が確認され、石狩市浜益区 (実田) が北限生息地です。

生息地により、大きさや黄色紋、後翅裏面の色調に違いが見られ、北海道、東北産は小型で黄色みが強く、西日本産は大型で白みが強く現れます。朝鮮半島、中国、台湾産のものは、後翅裏面に斑紋の輪郭が濃く現れます。

成虫は北海道では7月中旬から8月上旬に発生し、ハルニレ、ミズナラの樹液を主な食餌としています。幼虫は、エゾエノキ (本州ではエノキ) の葉を食餌とし、3齢 (※3) から4齢になって食樹を降り、落葉中で越冬します。翌春、食樹 (※4) に登って成長を続けて蛹化、羽化して成虫となります。

(石井滋朗)



オオムラサキ(オス)
(小樽市総合博物館所蔵標本)

- ※1. 環境調査のため選ばれた10種類の昆虫。分布域が広く、比較的なじみがあり、平地から山地までの良好な自然環境に生息する、環境の指標となる昆虫が選ばれている。
- ※2. 蝶の羽を広げたときの左右の大きさ。
- ※3. 幼虫の脱皮の回数、孵化直後の幼虫を1齢幼虫、1回目の脱皮後を2齢幼虫と呼ぶ。
- ※4. 蝶の幼虫が葉を食べる木。

- (1) 秋庭隆 (1985) 日本大百科全書 4. 小学館。
- (2) 簾舞地区町内会連合会オオムラサキ保護育成事業分科会 (2009) とよたき/みすまい オオムラサキガイド。簾舞地区町内会連合会オオムラサキ保護育成事業分科会。
- (3) 永盛拓行・永盛俊行・坪内準・辻規男 (1986) 北海道の蝶。北海道新聞社。
- (4) 下中直人 (1988) 世界大百科事典。平凡社。
- (5) 渡辺喜久雄 (1981) 北海道大百科事典上巻。北海道新聞社。